

編集後記

2011年、平成23年が始まりました。年の始めは清々しく気持ちよいと感じるのは私だけではないと思います。心新たにまた、頑張ろうという気になります。「気」だけにならぬよう、しかし大事な「気」を維持して1年間頑張っていきたいものです。

さて今回、記念すべき第44巻第1号の編集後記の担当となりました。何が記念すべきなのかというのは、今年から当学会誌がペーパーレス、電子化に完全移行するからです。この拙文が移行後初めての編集後記になると思います。電子化にともない「編集後記」のタイトル変更も編集委員会で検討されましたが、変更せず掲載することになりました。学会誌の電子化は環境面の省資源化、印刷・配送経費節減などメリットは多々あります。今年は日本でも電子書籍がブレイクしそうな気配です。ただ、仕事に疲れたときに気分転換を兼ね、会誌をパラパラとめくり貴重な症例を「なるほど」と見る楽しみが個人的には減ることになります。この点は残念に思います。会誌の電子化に先立ち、昨年からはオンラインによる電子投稿システムも採用されることになりました。それまでの紙媒体による投稿より遙かに投稿しやすくなったと思います。このシステム導入に伴い、編集委員会における査読方法についても検討が行われました。それまで月1回編集委員が事務局の会議室に集い、投稿された論文をより良いものとして掲載するため、熱心な討議がくり広げられていました。電子投稿システム採用により、他の雑誌でも行われているような、オンライン上で完了させるシステムも可能だったのですが、編集委員会ではこれまで通り委員が集まり討議する方法が選ばれ、これまでの方式に合うようシステム作りが進みました。もちろん、集まらず自分たちの部屋で作業が終了するほうが遙かに楽であるのですが、学会誌が日本で最高の邦文誌であるために努力してきた方法はやはりすばらしいシステムであり、そのまま継続していきたいという委員会の結論でありました。桑野博行編集委員長の「新たな年、そして新たな転機に向かって」が当学会ホームページ上、機関誌「日本消化器外科学会雑誌」の項に掲載されています。是非、ご一読され編集委員会の方向性を再確認したうえで数多くの論文が投稿されることを希望しております。皆様とともに最高の雑誌を創っていきたいと思います。本年もよろしくお願い申し上げます。

(松原 久裕)